

令和4年度 相楽園の管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	本市公園のうち、唯一の近代日本式庭園。面積1.4ha
(2)指定管理者	神戸市造園協力会・神戸市公園緑化協会グループ
(3)指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
(4)R4市支出額(単位:円)	協定締結額:41,529,814円 決算額:41,816,975円(精算額:287,161円)

2. 管理運営内容

(1)管理実施状況		4年度の状況
①施設の維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 近代日本式庭園にふさわしい植栽管理(クロマツの剪定、和の植栽などに配慮) 施設及び設備の保守点検、修繕、清掃、備品管理等 	
②施設の運営業務	<ul style="list-style-type: none"> 施設の総合的なマネジメント、入園料の徴収、イベント等の実施による公園の活性化 営業時間 9時～17時(イベント時は夜間開園あり) 木曜日は休園 つつじ遊山期間(毎年4月下旬～5月初旬)、菊花展期間(10月下旬～11月下旬)は無休 	
③その他の業務	<ul style="list-style-type: none"> 自販機、イベント時屋台・模擬店の設置 	
(2)利用状況		4年度の状況
①施設利用状況	入園者数 98,722人(対前年度比137%)、3年度 71,815人、2年度 64,256人	
②その他利用状況	4/23-5/8つつじ遊山(18,293人)、8/27-28にわのあかり(3,244人)、10/22-11/6菊の展示会(16,382人)	
(3)収支状況		4年度の状況
①使用料または利用料金収入	入園料:15,264千円(対前年度比150%)、3年度 10,143千円、2年度 8,722千円	
②指定管理者の収支状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理部分 収入41,817千円 費用43,454千円 差引△1,637千円 収益事業部分 収入3,842千円 費用418千円 差引3,424千円 	
(4)その他		4年度の状況
①行動指針に対応	<ul style="list-style-type: none"> ①日本庭園の文化を継承し、高度な植物管理技術による庭園管理を行う。 →専門家の高度な技術による安定した植栽管理、庭園景観の形成 ②魅力あるプログラムと効果的なプロモーションによる来園者の増加と顧客満足度の向上(案内掲示の充実) →庭園を楽しむ四季の行事(菊、つつじ等)や地域との協働によるイベントの開催等 	

3. 主な提案内容と達成状況(再掲)

	提案内容(目標値など)	達成状況
①利用者数または利用率	目標入園者数 78,000人	入園者数実績 98,722人(対目標比127%) (うち有料入園者数 63,746人)

②収入目標額	目標収入額 9,300千円		入園料実績 15,264千円(対目標比164%)
③その他新たなサービス	指定管理者による提案及び実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・つつじ遊山(18,293人) ・庭園内の建物を活用したイベント等の開催(相樂園大学、コンサート等) ・庭園を楽しむ季節の行事の開催や演出(冬ぼたん、干支饅頭配布、ライトアップ、七夕、門松等) ・相樂園会館、兵庫県立大、関西国際大学、NPO、学校、市民等の連携(コンサート等のイベント、研修) ・景観を構成する重要な樹種(つつじ、クロマツ、ソテツ)の健全な管理 ・文化財の景観に配慮した植栽管理(正門アプローチ正面、和風飾花 等) ・灯具をLEDへ更新(取替え可能なものはすべて更新済み) 	
	提案外で行った、特筆すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・菊花展終了のため菊花市民展示会を実施(16,382人) ・安全性と文化財保護に配慮した植栽及び施設管理(文化財建築物・堀周囲 等) 	

4. 利用者の満足度調査等

		4年度の状況	
①満足度調査の実施内容	アンケートの実施 アンケート回収数	令和4年11月～令和5年2月 200件	(令和3年 3件)
②満足度調査の結果	満足 106人 やや満足 42人 普通 30人 やや不満 1人 不満 3人 満足度{(「満足」×2+「やや満足」×1.5+「普通」×1+「やや不満」×0.5)÷(「満足」+「やや満足」+「普通」+「やや不満」+「不満」)×100÷2}⇒ 83.9% (R3: 75%)		
③利用者からの主な苦情、意見とそれへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープをふやしてほしい。 (施設独自アンケートコメント:いつも気持ちいい。庭園はきれい。海外の人にも楽しんでほしい。)		

5. 選定評価委員会の評価

管理運営に対する総合評価	●AAA ○AA ○A ○B ○C				
所見	<p>4年度はつつじ遊山や季節の行事が開催され、入園者数、入園料収入ともに目標・前年度を上回った。</p> <p>国の登録文化財である神戸唯一の近代日本庭園として、植物管理では専門家組織が管理する利点を活かし、景観の主要素であるマツや大クスの樹勢などに配慮した管理方法を検討・採用している。</p> <p>コロナ禍で、感染拡大対策を行いながら、安全に留意したうえで再開し、THE SORAKUENや学校、地元の和菓子店、市民等と引き続き連携しながら利用促進に努めている。</p> <p>また、菊花展に変わる事業として菊花市民展示会を自主事業として実施し、集客に努めている。</p> <p>広報面においては、SNSを活用し、相樂園の庭園、文化財としての本来的な価値の周知に努めていることも評価できる。</p> <p>庭園の維持管理においては引き続き、指定管理者が持つ専門性を十分に活かして、庭園としての価値を追求し、園の将来像を見据えた中長期的な視点で園地管理に取り組みされており、つつじやもみじのスポットとしても周知され、若い層や有料入園者が増加している。今後も入園者獲得(特に有料入園者数の増加)に努められたい。</p>				

令和4年度 森林植物園の管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	六甲山の山なみと自然を背景に、針葉樹を植栽し、四季を彩る落葉樹や花木をそえる樹木植物園として、博物館相当施設・社会教育施設の役割を果たす。 面積142.6ha 施設・修景的緑地・自然林・造成林・駐車場等
(2)指定管理者	公益財団法人神戸市公園緑化協会
(3)指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
(4)R4市支出額(単位：円)	協定締結額：164,834,760円 決算額：217,411,461円(精算額：52,576,701円) ※協定・決算額は当初提案額から、派遣職員人件費(協定20,000,000円、決算13,267,370円)を差引いたもの

2. 管理運営内容

(1)管理実施状況		4年度の状況
	①施設の維持管理業務	・博物館相当施設及び植物園にふさわしい植栽・樹林管理、園地管理 ・施設及び設備の保守点検、修繕、清掃、備品管理等
	②施設の運営業務	・施設の総合的なマネジメント、入園料の徴収、イベント等の実施による公園の活性化 ・営業時間 9時～17時 水曜日は休園(イベント時は臨時・夜間開園あり)
	③その他の業務	・食堂・休憩所、売店、駐車場、自販機
(2)利用状況		4年度の状況
	①施設利用状況	入園者数 177,580人(対前年度比90.8%)、3年度 195,587人、2年度 195,739人
	②その他利用状況	三大散策会(つつじ・しゃくなげ15,657人、あじさい42,661人、もみじ57,591人)
(3)収支状況		4年度の状況
	①使用料または利用料金収入	入園料：25,755千円(対前年度比93.1%)、3年度 27,673千円、2年度 28,471千円
	②指定管理者の収支状況	・指定管理部分 収入205,086千円 費用218,418千円 差引▲13,332千円 ・収益事業部分 収入 30,089千円 費用 29,583千円 差引596千円
(4)その他		4年度の状況
	①行動指針に対する対応	①森林の生態系を維持していくため、長期的な視点で策定された展示林保全管理年次別計画に基づいた園地管理 →季節の見所となる植物の適切な管理(つつじ,しゃくなげ,あじさい等)、健全な森林に向けた植物管理(ナラ枯れ,マツ枯れ対応等) ②魅力あるプログラムと効果的なプロモーションにより、来園者の増加と顧客満足度の向上に努める。 →植物園の特性を活かした各種プログラムや多様なイベントの実施

3. 主な提案内容と達成状況(再掲)

		提案内容(目標値など)	達成状況
①利用者数または利用率		目標入園者数 225,000人	入園者数実績 177,580人 (対目標比78.9%) (うち有料入園者数 99,001人)
②収入目標額		目標収入額 30,000千円	入園料実績 25,755千円(対目標比85.9%)
③その他新たなサービス	指定管理者による提案及び実施状況	・三大散策会(つつじ・しゃくなげ:15,657人(3年度:5,151人)、あじさい42,661人(3年度35,387人)、もみじ57,591人(3年度77,880人))	
		・季節の見所となる植物の適切な管理(つつじ,しゃくなげ,アジサイ等)、健全な森林に向けた植物管理(アジサイ等の補植、ナラ枯れ,マツ枯れ対応等)	
		・新たな植物景観創出のための新規植栽及び環境改善(アナベルの森づくり 等)	
	提案内容外で行った特筆すべき事項	・植物園の特性を活かしたプログラムの充実(企画展、生体展示、葉樹観察会、自然観察会、森林ガイドツアー 等)	
		・多様なターゲットに向けたイベントの充実(親子バードウォッチング、森のラッキータイム、ネイチャーゲーム、カエルの学校、森林浴ヨガ 等)	
		・森林展示館1階の改修では、展示内容等の監修を実施	
	・展示館外構の簡易舗装を実施		
	・緊急雇用事業による園内枯損木調査の実施		
	・市民参加によるアナベルの森づくり(継続)		

4. 利用者の満足度調査等

		4年度の状況
①満足度調査の実施内容		アンケートの実施 令和4年11月～令和5年2月 アンケート回収数 203件 (令和3年 5件)
②満足度調査の結果		満足 116人 やや満足 43人 普通 25人 やや不満 0人 不満 5人 満足度 $\{(\text{「満足」} \times 2 + \text{「やや満足」} \times 1.5 + \text{「普通」} \times 1 + \text{「やや不満」} \times 0.5) \div (\text{「満足」} + \text{「やや満足」} + \text{「普通」} + \text{「やや不満」} + \text{「不満」}) \times 100 \div 2\} \Rightarrow 85.1\%$ (R3: 75%)
③利用者からの主な苦情, 意見とそれへの対応		・ハチの巣があつて山路に入れないところがある →来園者の安全確保を最優先に、ハチの巣の撤去・安全確認が取れ次第通行可能とするよう対応している。

5. 選定評価委員会の評価

管理運営に対する総合評価	○AAA ○AA ●A ○B ○C
<p style="text-align: center;">所 見</p>	<p>4年度はコロナ禍の反動で市民が遠出傾向になったことや繁忙期の天候不順により、入園者数・入園料収入ともに目標・前年度を下回った。</p> <p>運営面では、引き続き感染対策を講じながら、季節ごとの散策イベントや植物の管理、新たな見どころ創出のための植栽及び植物の環境改善等を適切に実施するなど利用促進に努めた。また、博物館相当施設として森林に生息する動植物の特性を把握した展示により園の魅力を発信するなど、提案内容を工夫しながら着実に実施した。さらに、健康をテーマに園の自然環境を活かした企画等により入園者の獲得に努めた。</p> <p>維持管理では森林展示館1階エリアの改修を行い、森林や植物等が学べる学習スペースを創出し利用促進に努めた。</p> <p>今後も引き続き中長期的な視点で自然を生かした森林景観創出の取り組みを行うとともに、市民が安心してくつろげる貴重な屋外空間としての価値を高め、入園者獲得(特に有料入園者数の増加)に努められたい。</p>

令和4年度 離宮公園の管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	豊かな緑、四季に変化する多くの花木、恵まれた眺望や変化に富んだ造形美を生かし、潤いと安らぎのある市民の憩いの場をめざす 面積82.6ha 施設・修景的緑地・自然林・造成林・駐車場等
(2)指定管理者	神戸市公園緑化協会・神戸市造園協力会グループ
(3)指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
(4)R4市支出額(単位：円)	協定締結額：173,972,222円 決算額：191,434,033円(精算額：17,461,811円) ※協定・決算額は当初提案額から、派遣職員人件費(協定25,000,000円、決算22,629,689円)を差引いたもの

2. 管理運営内容

(1)管理実施状況		4年度の状況
	①施設の維持管理業務	・公園の景観や修景に配慮した植栽管理を行い、本公園の特徴である「バラ園」を充実 ・施設・設備の保守点検、修繕、清掃、備品管理等
	②施設の運営業務	・施設の総合的なマネジメント、入園料の徴収、イベント等の実施による公園の活性化 ・営業時間 9時～17時 木曜日は休園(イベント時等は臨時・夜間開園あり)
	③その他の業務	・レストハウス(レストラン)「ガーデンパタジェ」、臨時売店、駐車場、和室
(2)利用状況		4年度の状況
	①施設利用状況	・入園者数 252,518人(対前年度比111%)、3年度 226,917人、2年度 221,518人
	②その他利用状況	・春のバラ鑑賞会(45,796人)、花しょうぶ鑑賞会(9,179人)、秋のバラ鑑賞会(22,850人)、もみじ鑑賞会(17,594人)、梅見会(13,690人)、SumaRikyuルミエール(15,499人)
(3)収支状況		4年度の状況
	①使用料または利用料金収入	入園料：44,641千円(対前年度比110%)、3年度 40,703千円、2年度 39,636千円
	②指定管理者の収支状況	・指定管理部分 収入191,307千円 費用203,439千円 差引▲12,132千円 ・収益事業部分 収入43,804千円 費用 27,734千円 差引16,070千円
(4)その他		4年度の状況
	①行動指針に対する対応	①四季折々の開花や紅葉等、植物を楽しめる運営管理及びバラ園の充実、普及・啓発に努める。 →季節ごとの開花に合わせたきめ細やかな植物管理と、植物を活かした企画展示の実施 ②レストラン等の魅力アップや活用、利用者へのサービス向上に努める。 →レストランによる新たな顧客層の取り込み及び連携事業(神戸女子大学等)の展開

3. 主な提案内容と達成状況(再掲)

	提案内容(目標値など)	達成状況
①利用者数または利用率	目標入園者数 282,000人	入園者数実績 252,518人 (対目標比89.5%) (うち有料入園者数 133,464人)

②収入目標額	目標収入額 42,000千円		入園料実績 44,641千円(対目標比106%)
③その他新たなサービス	指定管理者による提案及び実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春・秋バラ、花しょうぶ、もみじ鑑賞会、梅見会の開催 春: 45,796人、秋: 22,850人(元年度105,602人)、花しょうぶ: 9,179人、もみじ: 17,594人、梅見会: 13,690人 ・季節ごとの開花に合わせたきめ細やかな植物管理と、植物を活かした企画展示の実施 ・神戸女子大学キャンパス・パーク(OP)連携事業(ゼミ学習、ワークショップ、イベントボランティア 等) ・レストラン事業者との連携による園のイメージ向上及び新たな客層の取り込み ・SNSへの投稿、神戸市公式LINEでの花情報の提供、マスコミ取材など積極的な広報の展開 ・和菓子店団体、市内化粧品会社等と連携した土産品の販売 ・LINEを活用したアンケートの実施 	
	提案外で行った、特筆すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣大学等と連携したバラの無農薬栽培の継続とそれを使用したオリジナル商品の開発 ・園内産蜂蜜「Rikyu Honey」を活用した連携の継続(神戸女子大や和菓子店団体との共同開発等) ・市補助事業(経済観光局)を活用したキッチンカーの出店による利便性向上の継続 ・バラ園再整備のためのクラウドファンディングの取り組み 	

4. 利用者の満足度調査等

		4年度の状況	
①満足度調査の実施内容		アンケートの実施 アンケート回収数	令和4年11月～令和5年2月 203件 (令和2年 4件)
②満足度調査の結果			満足 125人 やや満足 49人 普通 19人 やや不満 2人 不満 1人 満足度{[(「満足」×2+「やや満足」×1.5+「普通」×1+「やや不満」×0.5)÷(「満足」+「やや満足」+「普通」+「やや不満」+「不満」)]×100÷2}⇒ 87.6% (R3: 81%)
③利用者からの主な苦情, 意見とそれへの対応			・看板が古くて、文字が消えている。 →文字が消えている、本体が損傷している等の看板は順次撤去対応している。 (施設のインスタグラムへの反応コメント: 今年の薔薇は本当に綺麗)

5. 選定評価委員会の評価

管理運営に対する総合評価	<input type="radio"/> AAA <input checked="" type="radio"/> AA <input type="radio"/> OA <input type="radio"/> OB <input type="radio"/> OC
--------------	--

所 見

4年度は、入園料収入は目標・前年度を上回った。入園者数は前年度は上回ったが、須磨区の神戸まつり(須磨音楽の森)の延期、台風や猛暑、寒波の影響により年間目標は達成できなかった。

運営面では、指定管理者の専門性を活かし、関西随一のバラ園としての魅力向上をはじめ、園内各エリアで次々に見頃を迎える花のきめ細やかな管理、剪定、補植などの景観整備を中長期的な視点で行った。また、バラ園のリニューアル整備に向けクラウドファンディングに取り組んだことも評価できる。

一方で、養蜂事業やバラの栽培などについて、近隣大学や和菓子店、化粧品会社等と協働で商品販売・開発に取り組むなど、連携事業を着実に進め、独自の特徴的な取り組みとしていることは評価できる。

今後も、園の本質である庭園景観の向上を図り、「緑地改善計画」に則し中長期的展望に基づいた安定的な園地管理を行うとともに、広大なオープンスペース及びアクセスの利点を活かし、新たな需要に対応した施設運営やPRの展開等により、入園者獲得(特に有料入園者数の増加)に努められたい。